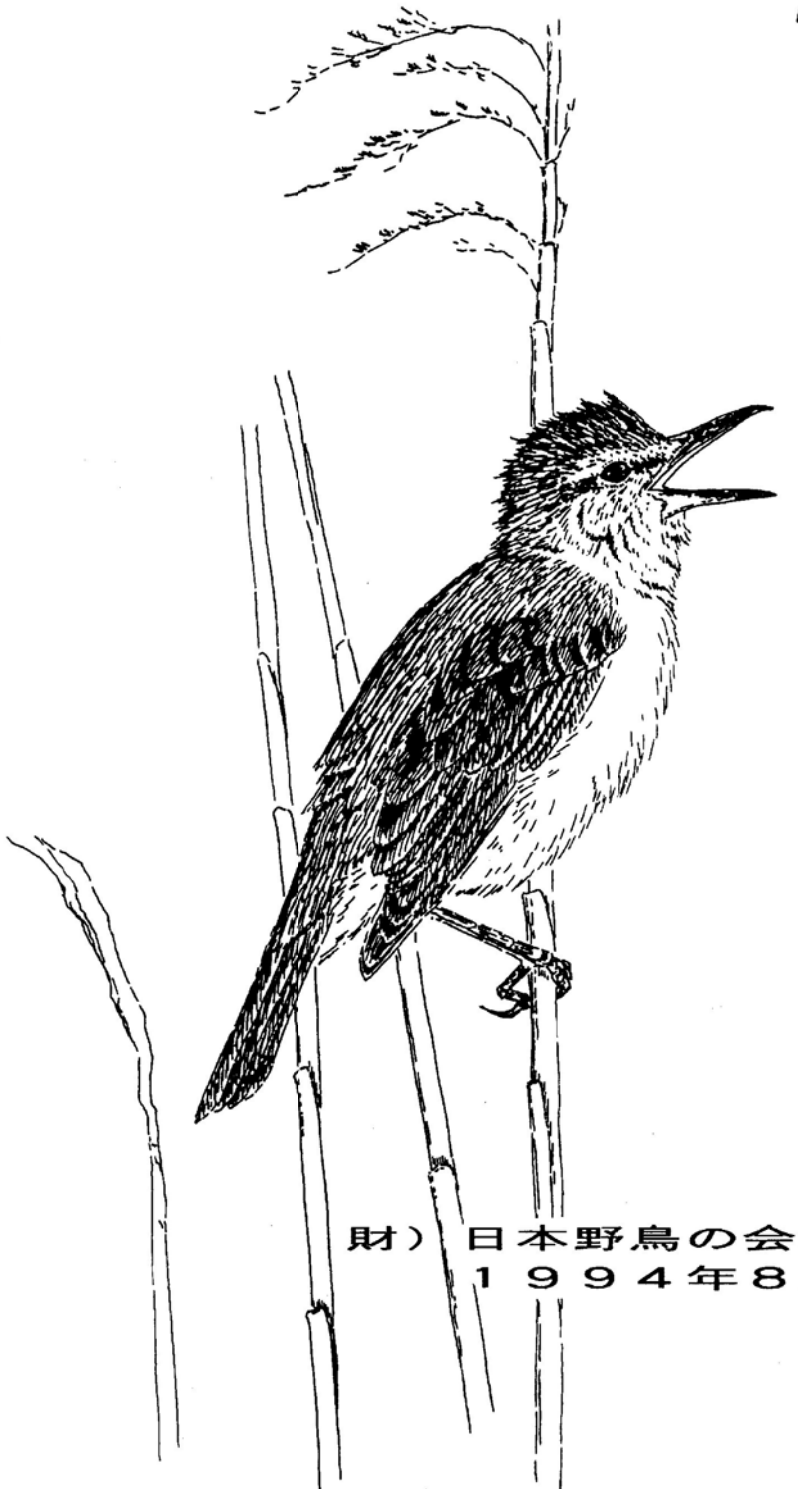
# しろぢり



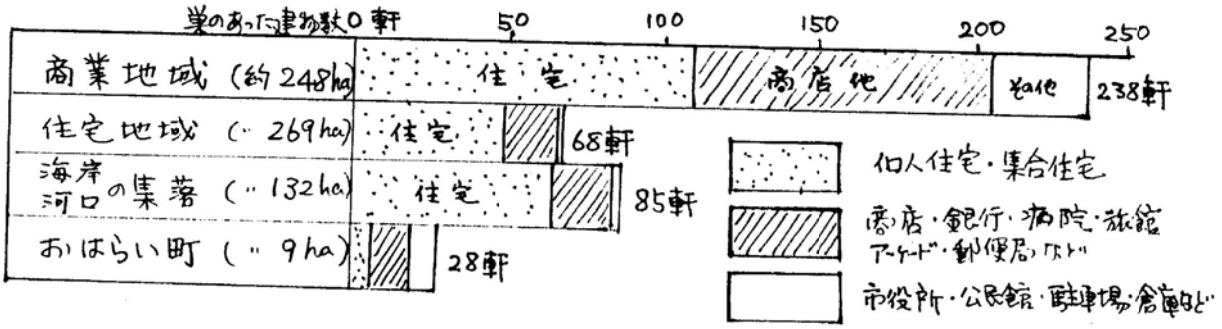
財）日本野鳥の会三重県支部
１９９４年８月　第６号

# 伊勢におけるツバメの繁殖調査

南勢地区ツバメ調査グループ

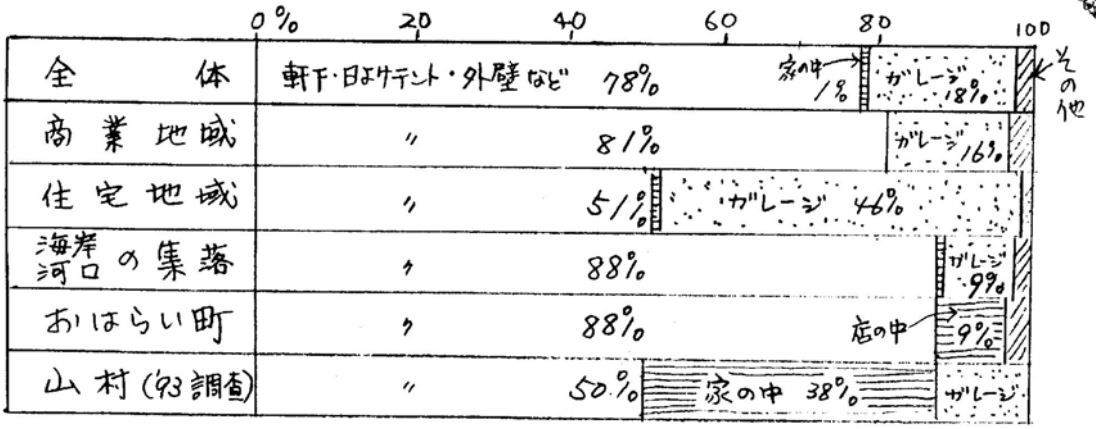
「この頃ツバメが減ったと思わへん？」との疑問に始まり、去年の予備調査に続いて今年、第一回目の調査を行いました。伊勢市全域は調査できないので、サンプル的に地域を①商業地域、②住宅地域、③海岸、河口の集落、④おはらい町、⑤山村（93年度に調査した横輪町、矢持町）に分けて、実施しました。調査期間は1994年 5月～ 7月で、調査地域を徒歩または自転車で廻り、巣のある所を地図と調査票に記録した。

## 1. 巣が見つかったのはどんな地域か？




- 緑が多く、閑静な住宅地には巣が少なく、絶えず人通りのある商店街やバス通りに巣が多い。
- 巣のある所は集中してあり、偏在している。
- 今年ツバメが沢山来ていた所は　①おはらい町、②伊勢・南島線（八日市場～辻久留）③大湊町バス道路沿い、④宮川町旧街道沿い、⑤吹上交差点周辺、⑥岡本 1丁目

## 2. 建物のどこに巣が作られているか？



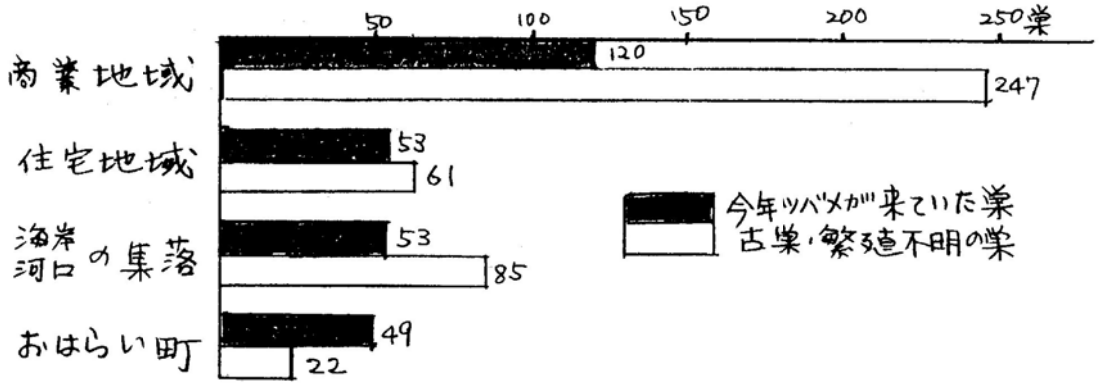

- 商店街・バス道路など人通りの多い場所では、軒下など人目につきやすい所に巣が作られている。
- 郊外の住宅地では、コンクリートのガレージに巣が作られることが多い。
- 大湊では、新興住宅地にもツバメが多くの巣を作っている。コンクリートのガレージに代ってモルタルの玄関ポーチの内側の目につきにくい所に巣を作っている。
- 昔（？）は家屋の中に巣を作ることが多かったと聞いているが、今回の調査では個人住宅は非常に少なかった。93年に調査した矢持町で 3軒、94年の調査では大湊町 1軒、藤里町 1軒の計 5例のみであった。家の造りが変わった（土間が無い）ことや、戸閉めで留守の家が多くなったことで、家の中に巣を作ることが歓迎されなくなったためと思われる。
- おはらい町では赤福、すし久の店の中に巣をかけており、大切にされている。

3. 巣が何についているか？

- 1年中しめ縄を飾る伊勢地方独特の風習をツバメが利用している。しめ縄は毎年取替えられるのに、翌年もまた使っている。
- 照明器具、換気口、コンセント、日除けテントの鉄骨、窓枠、表札など様々なものに作っている。
- 巣台を作ってある家が多くあるが、使われていないものも多い。

4. 巣の数

- 調査で見つかった巣の総数： 690巣
  - うち今年ツバメが来ていた巣： 275巣（40%）
  - 古巣、巣の跡、繁殖不明の巣： 415巣（60%）
- 1軒当たりの巣の数：平均 1.6巣、おはらい町だけが 2.5巣と多い。




- 商業地域や海岸・河口の集落で古巣の割合が高いのは、巣が見つけ易い軒下などにあることが多いためと考えられる。住宅地域ではガレージの中に巣がある場合が多いので、ツバメが出入りしていないと見つけられない。
- 古巣が多い地域は河崎 1丁目・ 2丁目、宮後 2丁目で、これらの地域では、以前、ツバメが沢山来ていたと言う話しである。

5. 繁殖の成功率－天敵など育雛の障害となるもの

- 岡本町では今年ツバメが来ていた17巣のうち、ヒナが巣立ったのは12巣で、成功率は70%だった。不成功 5巣のうち、 2巣は抱卵までいっている。
- おはらい町では49巣が全て巣立ちしたと思われる。
- 主な天敵はヘビ、カラス、猫である。人間も巣を壊したり戸を閉めてツバメを追い払う。
- ツバメ同志の巣の取り合い、ヒナをくわえて放り出す、卵を落とすなどが起こっている。
- スズメに巣を乗っ取られたり、ダニがわくこともある。
- 大雨で巣がこわれたり、振動で巣が落下する（自動車道のトンネル）ことがある。

6. エサ場・巣材集め

o神宮の森、大湊養魚池周辺、宮川、五十鈴川、勢田川、鼓ケ岳、三郷山など大規模な緑地や水辺のほか、街中の神社の森、公園の緑、排水路など種々の緑や水辺がエサ場となっている。

o今年ツバメが沢山来た所の近くには、いずれも十分なエサが確保できる緑地や水辺がある。

o田んぼの益鳥であったツバメだが、現在エサ場として田んぼはどれくらい重要なのだろうか？

oエサとして、トンボを運んでくることが多かった（岡本 1丁目、吹上町）。

o巣材の泥は主に周辺の田んぼで採っていると思われるが、勢田川のヘドロや街中の小さな水たまりでも、泥をとっている。岡本町のK宅のツバメは巣の中に敷くワラを、お向い 2軒の家のしめ縄から失敬してくるという話で、伊勢のしめ縄はツバメのためにも役立っている。

7. 宮川町味文酒店の記録

味文酒店では1971年 6月10日に店を新築した。その 3日後からツバメが訪れ、毎年営巣するようになった。巣に定着した`(ねぐらを取りはじめた）日、ヒナ誕生の日など24年間にわたる記録を提供していただいた。最近、巣は三つあり、いずれも巣台の上に作られている。

ツバメは通常、年 2回繁殖すると言われているが、ここの例では24年間で 5回しかない。 2番子は別の場所でと考えるべきなのだろうか？ また、ここでは天敵にやられたり、ツバメ同志の争いなどは無いとのことである。

8. おわりに

「この頃ツバメが減ったと思わへん？」との疑問にはまだ答えられていないが、限られた人数による不十分な調査であっても、多くの面白い発見があった。

(1)調査に歩いてみると今もツバメに好意を寄せている人が多く、ツバメの訪れを楽しみにしているという声を沢山聞くことができた。また、ツバメが来ないと悪い兆しと心配している人が少なからず居て、人間とのかかわりの深さを感じさせられた。

(2)「エサ場がある」、「天敵から守られる」の二つの条件が満たされる所に巣が作られると考えられるが、おはらい町はツバメにとって住みやすい所のようだ。他の地域では、新築・改築後来なくなることが多いのに、おはらい町では新築された建物にも巣がどんどん作られ、また繁殖成功率も大変高い。

(3)駅前再開発、ジャスコの移転などで街の様子が変って行くとき、ツバメの営巣地もまた変るのだろうか？ 調査を継続してこと行くことで、見えてくるだろう。

9. 調査参加者

今村 禎、加島隆子、加藤寿美、菊川幸子、小坂里香、下和田幸子、杉浦邦彦、世古口有司、中村あい子、中村みつ子、西村 泉、橋本祐子、林 淳子、馬場幸子、広八太郎、福村益子、福山道子、藤本幸也、松本恵理子、山川尚子、吉居瑞穂

（文責 吉居 瑞穂）

# 私の探鳥会

石川　きのゑ

わが家は、二人暮しになって久しい。いつからか、近くの垂坂観音まで早朝の散歩に出かけるようになりました。時々は、気の進まない日もありました。ところが、近ごろ俄に楽しくなってしまったのです。それは、野鳥に興味を持つようになったからです。探鳥会で教わったことを参考に、双眼鏡と手帳は必ず持っていきます。この頃は天気さえよければ、勇んで出かけます。家のドアを閉めれば、もう私の探鳥会の始まりです。ヒヨドリ、スズメ、空を行くのはコサギ？、足の先が見えない……。気をつけて見れば、身近なところに結構いろいろな鳥のいることに気がつきました。最近、この辺でも思わぬところに突然団地ができたりして、自然がどんどん壊されております。せめてこれ以上開発されませんようにと、祈るのみです。ときどき、コースを変更してみたり、少し距離をのばしてみたりして、探鳥を楽しんでいます。

ここで、ある日の記録を披露してみたいと思います。

1994年5月19日（木）晴れ　4：51～6：20
（9,778歩）

キジバト（ペア）、ムクドリ（30）、スズメ、ダイサギ（目先は見えないが）、ハシボソガラス、キジ（ペア、大師塚の裾の草むら）、ヒヨドリ、カワウ（ウミウと区別がつかないが）、コジュケイ（声）、アマサギ（植え田にダイサギ、コサギなど混合16）、ケリ（近くに巣があるらしい）、ウグイス（声）、タマシギ（ペア）、コサギ
（今日は14種）

この頃はたびたび、キジと逢う。どうも3組いるらしい。タマシギを今日初めて見た。年甲斐もなく、どきどきしてしまった。しかし、先輩に教わったことを想いだし、しっかり観察した。帰宅して、自然ガイド（トリ）で調べたところ、タマシギであることが判明。きれいなほうが雌ですって。おまけに、一妻多夫だそうな。子育ても、雄がするそうな。でも、本州・中部では珍しくないそうな。

# 山での出会い

加藤　寿美

山を歩いていると、いろんな鳥の声が聞こえてきます。その声で鳥の名前がわかればどんなに楽しいだろうとずっと思っていました。一昨年五月、新聞に出ていた「探鳥会」に思い切って参加しました。伊勢神宮内宮周辺で行われた探鳥会では、五十鈴川上流でヤマセミの華麗な姿を間近に観察できるという幸運に出会えました。それ以来、私は鳥の虜になってしまいました。

休日は山に出かけてしまうため、平日の探鳥会しか参加できません。図鑑とテープで一つ一つ鳥たちと知り合いになっています。テープを何度も聞き、実際にその声を耳にした時は、まるで宝物に出会ったような幸せな気分になります。

五月の連休に夫と二人で戸隠キャンプ場をベースキャンプにして、高妻山と飯縄山に行ってきました。キャンプ場では早朝より、マミジロとクロツグミの声で目が覚め、おもわず「テープと一緒！」と叫んでしまいました。飯縄山の芽ぶきはじめたカラマツの林の中をゆっくり歩いているとき、ウソのカップル二組とすぐそばで出会うことができました。　これからもいろんな山で出会える鳥たちが、私の山行きにいっそうの彩りを添えてくれると期待してます。それにしても、何度聞いても覚えの悪さに、我ながらうんざりです。

## 和佐又山・大台ケ原の探鳥会に参加して

中橋　茂子

この度の山地探鳥会に中村さんよりお誘いを受け、山鳥見たさに初めて参加させていただいた。夕方、和佐又山に到着。周囲二尋もありそうな栃の木が二本、今を盛りと見事に花をつけていた。夜8時ころ約100㍍先の森でコノハズクが鳴きだした。谷本さんが懐中電灯を持って見に行かれたが、枝から枝へ移るシルエットだけで、姿は見られなかったとのことだった。九時過ぎからヒュッテのすぐそばの森からも夜更けまで延々と鳴き続けていた。　翌日楽しみにしていた大台ケ原での探鳥会。森に入って間もなく、ピィピィピィーと鳴き声がした。あれはカラ類やなぁと誰かが言った。突然高い木の上から姿は見えないが、キョキョキョキョキョ‥‥と鋭い声、ホトトギスだ。私はすぐ特許許可局の聞きなしを思いだした。ツツピーツツピー、シジュウカラがいる。前方からはゴジュウカラがいたよとの呼び声に何だか気忙しくなってきた。すぐ近くで、コマドリがいるよと弾んだ声がした。エッどこに？ちょっと前の太い幹の木の枝の上にと言われたが、姿が見えない。その時、西村さんが望遠鏡でとらえて見せて下さった。あァいるいる。何ときれいな可愛いい小鳥だろう‥‥‥頭、胸、尾全体が赤色で、大きな口を開け、よくひびく声でさえずっている。ほんの2,3㍍のところで‥‥、胸にジーンときた。その感動も覚めやぬ中、後方からミソサザイがいるとの知らせに急ぎ引き返し、必死で探した。高さ2㍍ほどの太い立ち枯れの木の上にいるいる‥‥。全体が渋い茶色の小さなミソサザイが尾をピンと立ててチョコンと止まっている。コマドリのような派手さはないが、なんとも愛らしく魅力的だ。さらに奥に進む。二ツ池付近に来たとき、林さんにキバシリがいると教えられ、目前の木の幹を目で追った。尾が少し長く、木の幹によく似た色調で、幹につかまりながら、上へ移動していくのを見ることができた。その他、会員の方々からオオルリやルリビタキなどを見られたとお聞きしたが、残念ながら私には見ることができなかった。でも私にしてみれば、コマドリやミソサザイなどに出会うことができ、全く夢のようで大満足でした。今回参加させていただいて本当によかったと思います。ありがとうございました。

## メシアンの鳥のカタログ

藤田　克三

久しぶりにレコード店へ行ってみた。店の片隅にあるクラシックのコーナーを見ていると、鳥のカタログと書かれた3枚組のCDが目に入った。オリヴィエ・メシアン（1908～1992）作品で、内容は鳥の動作や声、それに彼らの生活環境をピアノで表現したものです。登場する鳥を調べてみると、約77種が登場し、半数は日本の図鑑に記載されていますが、半分はヨーロッパあたりの図鑑で調べてみないとわからないようです。この曲を聞くことにより、フランス人の鳥と自然環境に対する考え方を知ることができると思います。曲の中に、サヨナキドリが出てくるのですが、この鳥、英名で、よく知られているナイチンゲールなんですよね。どんな声をしているんでしょうか。一度聞いてみたいものです。時として看護婦さんをナイチンゲールともいうようですけれどね。メシアン以外にも、野鳥や自然を題材にした曲がたくさんあるようですので、合わせて聞いてみると、野鳥にたいする知識が広がるのではないでしょうか。

# ツ バ メ 日 誌

小川　美津

四日市市内の我が家のガレージに巣を作ったツバメたちの物語（平成6年4月～6月）

1994・04.22　2台分の駐車スペースがある6坪の車庫の天井近くに、ツバメが巣を作れるように板を打ちつけたのは、数日前であった。車庫は建ててから40年ほどたっていて、天井には電線が数本張ってある。
18:001羽のツバメが入ってきた。
19:00シャッターを閉じる。

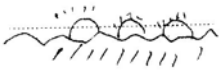
・04.23　06:30シャッターを開けると昨夜のツバメがすぐに外へ出ていった。
18:30帰宅（といっても、まだ巣は作ってない）。

・04.24　高窓（20×30㌢）から出入りしている。

・04.25　昼過ぎに、営巣用の板をもう一ヵ所打ちつけると、すぐに雌を連れてくる。夕方、車庫の上の部屋で荷物整理をしたため、その音が気になるらしく、
19:00ころまで何度も外へ飛びだした。夜、2羽は別々の場所で寝る。

・04.26　朝、1羽は高窓から、もう1羽はシャッターからそれぞれ外へ。夕方
18:30仲良く並んで寝る。

・04.27　巣作り始まる。
18:45帰巣



・04.28　巣作り。
18:30帰巣

・04.29　巣を作った場所が悪く、どろがほとんど下落。2羽でけんかしている。夜も別々の電線に止まって寝る.

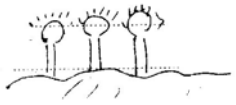
・04.30　可哀想なので、朝、落ちてしまった巣のすぐ横に新たに板を打ちつけてやっていると、途中で帰ってきた。別に驚く様子でもなく、見物している。気に入ったらしくて、どろを一生懸命運び始めた。公園、家の前、車庫の土間に降りては、わらくず、草のくずを拾いあつめている。道路に降りて歩いているツバメは不思議な感じ。
18:30帰巣。

・05.01　巣作り

・05.02　巣の下に板をもう1枚補強する。

・05.03　巣作り続く。

・05.05　ネコが4匹近くをうろつく。



・05.06　巣作り続く。

・05.08　巣の中に卵1個発見。

・05.12　卵5個あり。この頃から巣に座りこむようになった。

・05.14　時々卵を暖めている。シャッターの開閉は06:30と18:30

・05.15　台風並みにすごい雨と風で、2羽とも車庫の中で静かにしている。

・05.16　時々暖めている日が続く。

・05.19　1日中一生懸命暖めるようになった。

・05.27　（第 1日目）朝、卵の殻が3ヶほど下に落ちている。生まれたらしい。

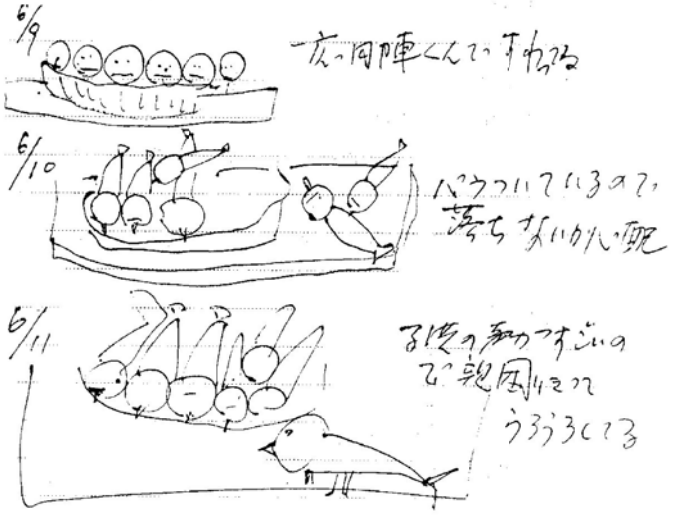
・05.28　（第 2日目）また、殻が1ヶ落ちていた。

・05.29　（第 3日目）巣の中は静かである。

・05.30　（第 4日目）巣の上部から、かすかに綿帽子様の物が3ヶ見える。

・05.31　（第 5日目）朝5:30まるでマッチ棒のように見える頭が出ている。軽く弱い声がかすかに聞こえる。

・06.01　（第 6日目）親ツバメがなにかくわえては、外へ捨てるので、見にいくとフンらしい。日に日に子育てに熱中していく様子。
・06.02　（第 7日目）鳴き声が小さく聞こえる。5羽か？
・06.05　（第10日目）19:00声を合わせてチィチィ合唱する。羽のうす黒いのがちらっと見える。
・06.06　（第11日目）朝、巣から6羽が顔を並べてチィチィという。親のエサ運びが本格的になった。
・06.07　（第12日目）6羽のエサを催促する鳴き声がすごい。親19:25に帰巣。
・06.08　（第13日目）羽も首もしっかりしてきて、狭い巣の中で寄り固まっている。
・06.09　（第14日目）羽ばたきの練習が始まる。親の周囲に対する警戒がすごい。




・06.10　（第15日目）6羽が板の上に広がり、羽ばたきの練習。前を向いたり後ろ向きになったり、だが夜は円陣を組んで寝る。
・06.11　（第16日目）羽ばたき練習続く。6羽のうち3羽は生長が早く、他は少し小さく弱そう。声だけはますます大きくなる。
・06.12　（第17日目）羽ばたき練習。声がますます大きくなる。1羽だけとても小さいのがいる。巣の奥の方に隠れている。
・06.13　（第18日目）特に生長の早い3羽が羽ばたきが本格化する。声も成鳥と変らないくらいになる。
・06.14　（第19日目）中でも一番大きいのが巣立ちする。外の屋根に移ってから、電線に止まろうとして失敗、地上に落ちたが、見守っていると、すぐに電線に上手に止まった。
・06.15　（第20日目）今日は1羽も飛ばず、昨日の恐怖を話し合っているよう。
・06.16　（第21日目）午前中、2羽目が飛び立つ。上手にあちこち散歩する。
・06.17　（第22日目）朝07:00、5羽飛び立つ。07:10最後の1羽も巣立ち。
18:30親子8羽が無事帰巣。
・06.18　（第23日目）朝06:00頃に一斉に飛び立って、夕方18:00頃に帰巣するという生活が始まる。
・06.23　（第28日目）親が再び産卵をしたがっているように見える。他の番いが入ってきて、けんかを始めた。
・06.30　（第35日目）いつものように朝一斉に飛び立っていったが、その後1羽も帰らなくなった。

ツバメたちが大空へ飛び立ってしまった日の私の心は複雑でした。初めて巣を作り、子ども6羽が立派に育ってくれた安堵感と、これからいろいろな危険にも出会うであろうと思う心配とで心が揺れ動いたのです。しかし、鳥も人間も一生懸命生きるしかないのだと思い、神様に祈る思いでした。でも素晴らしい、ちょっぴり早起きの苦しい体験でした。ツバメさん、南の国へ無事に渡り、来年も我が家のガレージへきっとへ帰ってきてくださいね。

## 短歌投稿

廣　八太郎

○五月には来鳴くが常のホトトギス
六月晦日未だ来たらず

○託卵をまぬがれ育ち七月に
幼き声の鶯鳴きぬ

○裏山の一つとこよりフクロウの
呼ばうが如く今日も聞こゆる

## 探鳥会報告

**○たった一人の探鳥会（桑名市大山田）**

・日　時：1994年4月19（火），30（土）日
・参加者：藤田克三
・観察種：キジバト、ツバメ、コシアカツバメ、ヒバリ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、
シロハラ、ホオジロ、スズメ、カワラヒワ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス
（以上14種）
・メ　モ：決してよい環境とはいえないこの団地の中、頑張れ野鳥たちよ。

**○宮川河口（伊勢市）探鳥会**

・日　時：1994年5月8日（日）晴　09:00～11:40
・担　当：世古口有司
・参加者：
（以上15名）
・観察種：カイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、ヒドリガモ、トビ、シロチドリ、
ケリ、キョウジョシギ、キアシシギ、イソシギ、チュウシャクシギ、ユリカモメ、
セグロカモメ、コアジサシ、キジバト、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、モズ、
オオヨシキリ、セッカ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス
（以上28種）
・メ　モ：参加者は少なかったが、その分和気あいあいと楽しんだ。外城田川河口シギを観察したが、中村さんが「カリがたくさんいる」という。それは『潮干ガリ』であった。宮川河口にたどり着いたら昼になっていた。終了後、ビーチクリーンアップを行った。

**○宮川河口（伊勢市大湊）平日探鳥会**

・日　時：1994年5月10日（火）晴　09:15～12:00
・担　当：小坂里香
・参加者：
（以上11名）
・観察種：カイツブリ、カワウ、ダイサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、
ミサゴ、トビ、ハヤブサ、キジ、シロチドリ、ダイゼン、ケリ、キョウジョシギ、
ハマシギ、キアシシギ、イソシギ、チュウシャクシギ、コアジサシ、キジバト、ヒバリ、
ツバメ、モズ、セッカ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス
（以上31種）
・メ　モ：水鳥と草原の小鳥が見られる場所。天候、潮の引き具合ともほぼベストコンディション

で、春の渡りのシギチドリや、夏鳥と冬鳥の居残り組を一緒に楽しむことができました。シギチドリの種類は少ないのですが、個体数はまずまずで、すぐ目の前の干潟を埋め尽くしたハマシギの群れを堪能。コアジサシのダイビングや美しいキジの声と羽ばたき、最後にだめ押しとばかりに、ハヤブサまで登場して大満足の探鳥会でした。

**○オオヨシキリ探鳥会（四日市市野田）**

・日　時：1994年5月12日（木）　曇時々晴　10:00～11:30
・担　当：木村京子
・参加者：　（以上7名）
・観察種：カワウ、ゴイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、ケリ、キジバト、ツバメ、ヒヨドリ、オオヨシキリ、セッカ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス　（以上16種）
・メ　モ：ここはオオヨシキリの密度が高いので、よく観察することができました。歩きまわらず、一ヵ所で一種類の鳥をいくつかの角度から観察する方法をとったので、オオヨシキリの声がしばらく耳から離れなかった方も。近年、消されつつあるアシ原に生きるオオヨシキリについて、少しでもわかってもらえたかなあと思っています。

**○亀山（亀山市江ヶ室～本丸町）水曜探鳥会**

・日　時：1994年5月18日（水）晴　09:20～11:45
・担　当：楢原蓁
・参加者：　（以上10名）
・観察種：カイツブリ、チュウサギ、サシバ、キジ、バン、ケリ、カワセミ、コゲラ、ツバメ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス（以上19種）
・メ　モ：バンの親鳥がヒナ4羽をつれて移動するところを間近に観察したほか、カワセミのダイビングからエサを食べるところ、羽づくろいまで、約30分間、みんなを釘付けにした。

**○愛知三重合同木曽岬・鍋田干拓地探鳥会**

・日　時：1994年5月22日（日）晴　10:00～12:00
・担　当：藤田克三
・参加者：　（三重県から以上7名）
・観察種：カワウ、ゴイサギ、アマサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、ホシハジロ、スズガモ、チュウヒ、キジ、バン、コチドリ、シロチドリ、ケリ、イソシギ、ソリハシシギ、チュウシャクシギ、コアジサシ、キジバト、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、モズ、オオヨシキリ、セッカ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス　（以上29種）
・メ　モ：朝からよく晴れ、探鳥会より昼寝をすると気持ちよさそうな日でした。そのせいか、参加者も19名とこの探鳥会としては少なかった。

**○奥山権現山（名賀郡青山町）探鳥会**

・日　時：1994年5月22日　晴　10:00～13:00
・担　当：前澤昭彦
・参加者：　（以上8名）
・観察種：ホトトギス、ヒヨドリ、ミソサザイ、ウグイス、オオルリ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、ハシボソガラス　（以上11種）

・メ　モ：シジュウカラとヤマガラの巣を発見。ヒナに餌運びに一生懸命の鳥を見てみんな感激しました。

**○たった一人の探鳥会（桑名市大山田）**

・日　時：1994年5月28日（土）その他5日間
・参加者：藤田克三
・観察種：トビ、コジュケイ、キジバト、コゲラ、ヒバリ、ツバメ、コシアカツバメ、ビンズイ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス　（以上17種）

**○椿世・亀田（亀山市）第1金曜探鳥会**

・日　時：1994年6月3日（金）　快晴　09:00～11:45
・担　当：楢原豪
・参加者：

（以上9名）

・メ　モ：セグロセキレイの幼鳥が水路に群れをなして採餌していた。ホオジロが一時姿を見せる数が少なかったが、今日はさえずる姿を行く先々で観察できた。田んぼで採餌するサギの姿がまったく見られなかった。

**○和佐又山・大台ヶ原（奈良県）探鳥会**

・日　時：1994年6月4（土）～5日（日）晴
・担　当：今村禎、谷本勢津雄、中村洋子
・参加者：

（以上14名）

・観察種：サシバ、キジバト、ジュウイチ、カッコウ、ツツドリ、ホトトギス、コノハズク、ヨタカ、モズ、ウグイス、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ホオジロ、カケス

（以上15種和佐又山）

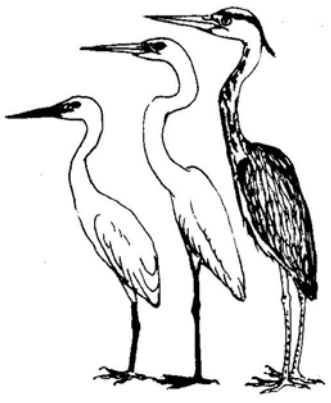
・メ　モ：夜、コノハズクの「ブッポウソー」という声を子守歌にききながら、床につきました。
・観察種：ジュウイチ、ツツドリ、ホトトギス、アカゲラ、コゲラ、キセキレイ、ミソサザイ、コマドリ、コルリ、ルリビタキ、ウグイス、メボソムシクイ、オオルリ、コサメビタキ、コガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、キバシリ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス　（以上23種大台ヶ原）
・メ　モ：前夜泊まった和佐又山キャンプ場ではうるさいくらいコノハズクが鳴きぜいたくな文句が出る場面もありました。大台ヶ原ではコマドリ、ミソサザイ、ゴジュウカラ、キバシリといった平地ではまずお目にかかれない鳥たちに逢え、満足満足の探鳥会でした。

**○一色橋（津市）サギコロニー探鳥会**

・日　時：1994年6月4日（土）快晴　10:00～11:15
・担　当：平井正志
・参加者：

（以上7名）

・観察種：カイツブリ、カワウ、ゴイサギ、ササゴイ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、カルガモ、キジバト、ツバメ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、オオヨシキリ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス　（以上19種）
・メ　モ：コロニーはアマサギ、チュウサギが主体で、コサギが少し混じり、ダイサギも一羽見られた。サギ類の



識別点について話し合った。夏羽と冬羽の違いも入れるとややこしくなり、理解できたかどうかわからない。一色橋上流の堤ではササゴイを見ることができた。

**○大石不動院（松阪市）平日探鳥会**

・日　時：1994年6月9日（木）小雨　9:30～11:30
・担　当：中村洋子
・参加者：　　（以上4名）
・観察種：カワウ、トビ、キジバト、カワセミ、ツバメ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、ホオジロ、スズメ、カケス、ハシブトガラス　　（以上13種）
・メ　モ：昨年ここでヤマセミを見たので計画した探鳥会ですが、残念ながら今日は観察できませんでした。ウグイスのさえずりがよく聞こえ、姿も見られました。

**○亀山（亀山市）水曜探鳥会（江ヶ室）**

・日　時：1994年6月15日（水）　09:20～11:15
・担　当：楢原蓁
・参加者：
　　（以上12名）
・観察種：カイツブリ、カワウ、ゴイサギ、コサギ、コジュケイ、バン、キジバト、カワセミ、コゲラ、ツバメ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、シジュウカラ、ホオジロ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス　　（以上18種）
・メ　モ：公園池でヒナを連れたカイツブリとバンを心ゆくまで見つめました。

**○石垣池（鈴鹿市）探鳥会**

・日　時：1994年6月19日（日）10:00～12:00
・担　当：市川雄二、濱中勝彦
・参加者：
　　（以上１５人）
・観察種：カイツブリ、カワウ、ゴイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、ホシハジロ、コアジサシ、キジバト、ツバメ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス　　（以上１６種）
・メ　モ：Ａさんからお電話があり、小雨決行です。ぜひ、来て下さいと返事をしたあと、現地へ着くまでかなりの雨が続き、どうなることかと心配していましたが、探鳥会を始める頃に、さっと雨があがってくれ、無事探鳥会を行うことができました。この日ばかりは、皆様の日頃の行いの良さに感謝する次第でした。

**○たった一人の探鳥会（桑名市大山田）**

・日　時：1994年6月25日（土）その他2日間
・参加者：藤田克三
・観察種：カワウ、コサギ、トビ、コジュケイ、キジバト、ホトトギス、カワセミ、コゲラ、ツバメ、コシアカツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス　　（以上18種）
・メ　モ：この団地内にもカワセミが現われました。団地内の調整池でです。また、渡りの途中か、ホトトギスの声も聞けました。

**○三重愛知合同木曽岬鍋田干拓地探鳥会**

・日　時：1994年6月26日（日）10:00～12:00
・担　当：藤田克三
・参加者：　　（以上5名）

・観察種：カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、カルガモ、オカヨシガモ、キンクロハジロ、
チュウヒ、キジ、コチドリ、ケリ、イソシギ、キジバト、ハクセキレイ、モズ、
オオヨシキリ、セッカ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、
ハシブトガラス　（以上25種）
・メ　モ：木曽岬干拓地の県境問題も両県が合意に達し、今後はどのように使っていくかが大きな課題になってくる。この地が干拓される前は、ガンカモやシギチドリなどの渡りの中継地点でもあり、越冬地でもあった。現在でも、この重要性は変ってはいない。わたしたち、野鳥と自然環境を保護するものとしてはこの地をサンクチュアリとして後世に残さなければならない義務があると思います。

**○亀山（亀山市）金曜探鳥会（椿世～亀田）**
・日　時：1994年7月1日（金）
・担　当：楢原蓁
・参加者：　（以上5名）
・観察種：カワウ、ゴイサギ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、オオタカ、サシバ、
コゲラ、ツバメ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ウグイス、オオヨシキリ、エナガ、
ヤマガラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、
ハシブトガラス　（以上24種）
・メ　モ：若いムクドリの群れ、若いホオジロを連れた親など、新世代の初々しいところを見た。

**○亀山（亀山市）水曜探鳥会（江が室～若山）**
・日　時：1994年7月13日（水）　09:20～11:15
・担　当：楢原蓁
・参加者：　（以上8名）
・観察種：カイツブリ、ゴイサギ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、サシバ、
コジュケイ、バン、キジバト、カワセミ、コゲラ、ツバメ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、
シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、
ハシブトガラス　（以上24種）
・メ　モ：人間も暑さにあえいでいるが、黒いカラスはどのくらい暑いのだろう。2羽の若鳥も口を開いていた。

**○夜のアオバズクを見る会（度会郡二見町西）**
・日　時：1994年7月16日（土）曇　19:00～19:40
・担　当：世古口有司
・参加者：
（以上21名）
・観察種：アオバズク（♂1、~~♀1~~、ヒナ4）
・メ　モ：二見町西の楠の大木に毎年やってくるアオバズクの夜の様子をウオッチング。巣立ち間近の可愛い4羽のヒナが親からエサをもらったり、近くの枝ではばたきのけいこをしているのがバッチリ観察できた。さらに、橋本さんが巣穴の下に落ちている食べがら（おもにコフキコガネ）を材料に、興味深いレクチャーをしてくれて、短いけれど楽しい観察会になった。

**○愛知三重合同木曽岬・鍋田干拓地探鳥会**
・日　時：1994年7月24日（日）晴　10:00～12:00
・担　当：藤田克三
・参加者：　（以上7名）

・観察種：カワウ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、ホシハジロ、チュウヒ、
キジ、バン、コチドリ、シロチドリ、ケリ、イソシギ、ツバメチドリ、キジバト、
ヒバリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、オオヨシキリ、セッカ、カワラヒワ、スズメ、
ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス　　（以上27種）
・メ　モ：今日は朝から晴れて、とにかくアツイ探鳥会でした。ツバメチドリ2羽を見かけました。

**里子鳥情報**

○アカエリヒレアシシギ　　5月15日　安濃川河口17:30　橋本祐子

## 地球環境問題シンポジウムに参加して

高　和義

去る6月20日四日市市などが主催する「地球環境問題（平成6年度）」に参加したので、その要旨を紹介すると共に、所感を述べます。

コーディネーター
　加藤　三郎氏（環境・文明研究所所長、前環境庁地球環境部長）
パネラー
　坪井　妙子氏（四日市消費者協会会長）
　藤村コノエ氏（環境教育コーディネーター）
　矢野　　弥氏（四日市大学教授）
　渡部　　宏氏（中部電力環境部長）
　吉井　純行氏（国際環境技術移転研究センター専務理事）
　玉置　泰生氏（四日市市環境部長）

1.基調講演　　加藤三郎氏

地球の人口は今後爆発的に増加し（現在56億人→2050年100億人）、その大部分は発展途上国の都市に集中、スラム化・無教育・犯罪の増加は深刻な社会問題となる。一方、食料生産と耕地灌漑面積は、'88年から陰りがみられ、現在では人口増に追いつかない状況になっている。酸性雨・砂漠化・地球温暖化が年々進行し、地球環境の悪化が問題となってきた。

'91年の経団連の地球環境憲章、'92年の地球サミットなど近年その関心が高まってきたが、その後の政治経済の激変によって薄れかかっている。21世紀に向け、『環境』を基調とする経済社会を創るための10の戦略分野として

①緑の保全と創出
②ゴミの減量化と静脈産業の強化
③エネルギーの効率的利用
④太陽エネルギーの積極的利用
⑤農業ルネッサンスの推進
⑥低公害交通システムの確立
⑦企業や生産プロセスのグリーン化支援
⑧環境教育、学習を通じての新しいライフスタイルの確立
⑨国際協力の推進
⑩国民運動の推進を提唱する。

2.パネルディスカッション

各パネラーより現在の取り組みと意見が一言述べられ、引き続き＜関心あっても実施できないことの対策＞＜途上国支援の問題＞＜参加＞をキーワードとしてディスカッションが行われた。

主な発言は次の通りです。

・牛乳パックの回収は6百万枚に達した、これは15～20年の立木4,000本に相当する。
・昔の人は自然の時間に合わせ、ストックを残して生活していた。学ぶべきところが大きい。
・原子力発電等途上国で使いこなせないクリーンエネルギーへの転換は日本が行う

べきである。
・途上国への技術移転では日本型の押しつけは不可。留学外国人に通訳なしで講義できる指導者の育成が急務。

一般市民が参加できるものとして特定するものはない、一人一人が地球環境意識を高め、家に帰って実行することがベスト。

3.一般参加者の意見

環境問題のPRの方法と、小学校副読本に載っている四日市公害の記述にたいする意見が出された。

4.感想

(1)出席者の熱心な討議があり、本日のシンポジウムは大変有意義であった。今後機会あるごとに開催されることを希望する。

(2)本会場では環境保全の気が満ちていて、木曽岬干拓地や藤前干潟などの保全は明日にでもできるみたいであるが、一歩外へ出ると国際流通センター・高速道路などの経済性や利便性の追求が先行しているのが現実である。

(3)過去、人間は目先の利益に囚われ、愚かなことを繰り返してきた。これからの価値感では、『物・金』に代わって『自然』が貴重となる。この自然を子々孫々に残していかなければならないことを痛感した。

以上について、日本野鳥の会三重県支部も声を大にしていかなければならないと思います。

## 室内研修会報告

### 『シロチドリを守るアクションプランを考えよう』を終えて

○日　時：1994年8月7日（日）　10:00～11:55
○場　所：三重県勤労者福祉会館　研修室
○参加者：18名

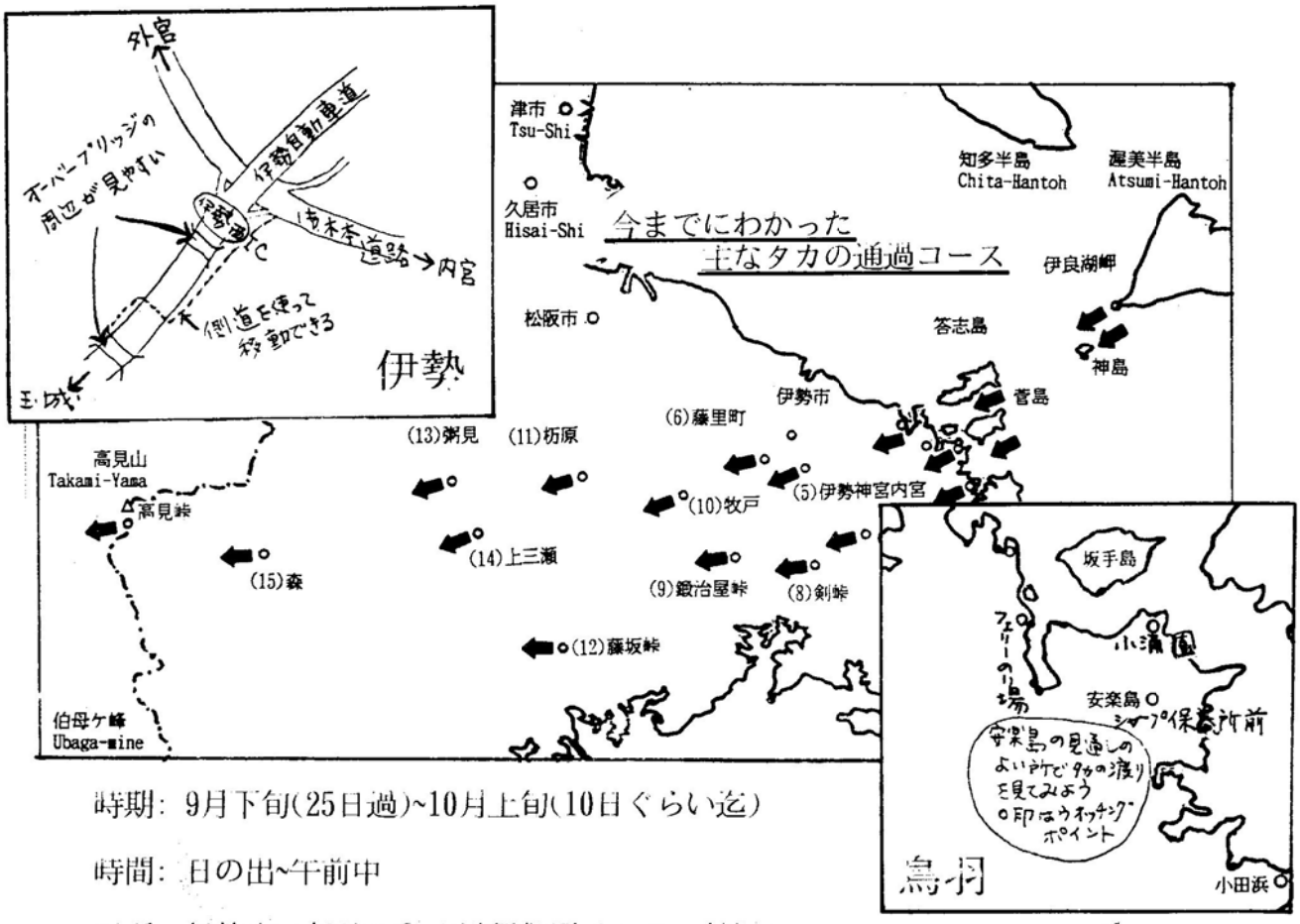
初めに、三重県支部研究部長の木村裕之氏より、シロチドリの生態の概要と今年の繁殖状況についてのお話をうかがった後、日頃疑問に思っていることなどを質問し、答えていただいた。

その後、4グループに分かれ、「シロチドリを守るためにどんなことができるか」を考え、紙に書きだした。そして、その中で、これならできるという案を各グループごとに発表した。繁殖期のみ、繁殖場所に人や車が入れないようにチェーンや柵を設けるなどの案が出された。

また、「シロチドリ保護委員会」をつくろうという話もで、さっそく桑名市の藤田克三さんが委員に立候補された。この委員会については、午後の理事会でも了承され、藤田克三氏のほかに、理事の平井正志氏と西村泉氏にも委員になっていただいた。この委員会は来年3月末までのとりあえずの期限付きだが、研修会で出されたアクションプランを踏まえて、何らかの動きを見せてくれるはず。みんなでシロチドリ保護委員会に協力し、みんなでシロチドリのために行動していこう！

# 秋“タカの渡り”を見に行こう

「タカひとつ見つけてうれし･･･」と、芭蕉が詠んだように古くからタカが渡ることはしられてました。
とりわけ伊良湖岬には、東日本のタカが集まってくるので有名ですが、鳥羽・伊勢でもこの“渡り”を見ることができます。
タカの渡りは“サシバ”がほとんどですが、なかには“ハチクマ・ノスリ・ハイタカ・ツミ・オオタカ”なども見られます。
また、小鳥類もたくさん見られますが“ヒヨドリ”の群れには圧倒されることでしょう。
さて、一度は“タカの渡り”を見たいもの、天候などの条件により確実に見られるとはいえませんが、おすすめの“タカ見”の場所を紹介しましょう。




時期: 9月下旬(25日過)~10月上旬(10日ぐらい迄)

時間: 日の出~午前中

場所: 伊勢市（伊勢自動車道伊勢西インター付近）
鳥羽市（安楽島、フェリー乗り場、小浦園等）

詳しくは 吉居瑞穂(　　)まで

## “タカの渡り”公開調査
## あなたも参加しませんか!

日付: 10月10日

場所: 二見、鳥羽を予定しています

問い合わせ 今村禎　　まで

※ 調査といっても難しいことはありません。
初めての方もどしどし参加してください。
お待ちしています。!!

（吉居・西村）

# 1994年1月15日ガンカモ調査

《日本野鳥の会三重県支部》

| 調査地＼種名 | オオハクチョウ | オシドリ | マガモ | カルガモ | コガモ | ヨシガモ | オカヨシガモ | ヒドリガモ | アメリカヒドリ | オナガガモ | ハシビロガモ | ホシハジロ | キンクロハジロ | スズガモ | ホオジロガモ | ミコアイサ | ウミアイサ | カワアイサ | カモsp. | 種数 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 木曽川河口 | | | | 2 | | | | 232 | | | | 80 | 44 | | | | | | 3 | 5 | 361 |
| 揖斐・長良川河口 | | | | | | | | 31 | | | | | | | | | | | | 1 | 31 |
| 朝明川河口 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| 伊坂ダム | | | 408 | 341 | 133 | 4 | 31 | 87 | | 6 | 3 | 19 | | | | | | | | 9 | 1032 |
| 山村ダム | | | 220 | 77 | 814 | 71 | 2 | 17 | | 60 | 27 | 215 | 747 | 4 | | | | | | 11 | 2254 |
| 鈴鹿川河口 | | | 28 | | | | | 65 | | 63 | | 381 | 67 | 5972 | | | 3 | | | 7 | 6579 |
| 楠町養魚池 | | | | | 52 | 3 | 26 | 77 | | | 19 | 1484 | 200 | | | | | | | 7 | 1861 |
| 鈴鹿川旅川河口 | | | 2 | 35 | 146 | | | 221 | | 40 | | | | | | | | | | 5 | 444 |
| 石垣池 | | | | | 213 | | 36 | | | 38 | 43 | 710 | 3 | 42 | | | | | | 7 | 1085 |
| 山上池 | | | | | | | | 38 | | | 108 | 576 | 6 | | | | | | | 4 | 728 |
| 浄土池 | | | 308 | | | | | | | | | 269 | | | | | | | | 2 | 577 |
| 道伯池 | | | 4 | 208 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 212 |
| 鈴鹿川庄野橋 | | | 44 | | 320 | | | 443 | | 10 | | | | | | | | | | 4 | 817 |
| 和田池 | | | 5 | 34 | | | | | | | 14 | | | | | | | | | 3 | 53 |
| 長田池 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| 公園池 | | | 12 | 33 | | | | | | | 17 | | | | | | | | | 3 | 62 |
| 田中川河口・養魚池 | | | 6 | 54 | 22 | 1 | 30 | 134 | | 34 | 24 | 542 | 21 | | | | 40 | | | 11 | 908 |
| 蛇谷池 | | | | 3 | 124 | | | | | | 2 | | | | | | | | | 3 | 129 |
| 五戸池 | | | 1 | | 12 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 13 |
| 杉の谷池 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| 小古曽池 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| 宮内池 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| 横山池 | | | 12 | 5 | 15 | | | | | | | 41 | | | | | | | | 4 | 73 |
| 三重野池 | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 3 |
| 田野池 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| 安濃ダム | | 42 | 201 | 45 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 4 | 289 |
| 合の池 | | | | | 19 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 19 |
| 梅ケ谷池 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| 片田貯水池 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| 安濃川河口 | | | 36 | 54 | | | | 21 | | 88 | | 7 | 2 | | 143 | | 41 | | | 8 | 392 |
| ◇雲出川古川 | | | 339 | | | | 3 | 105 | | 3 | | | 3 | | | | | | | 5 | 453 |
| ◇雲出川新川河口 | | | | 6 | | 8 | | 60 | | 348 | | | | | | | | | | 4 | 422 |
| 真泥池 | | | 150 | 32 | 21 | | 12 | | | 35 | | 11 | | | | | | | | 6 | 261 |
| ◇みかずみ池 | | | 2 | | 5 | | | | | | | 24 | 8 | | | | | | | 4 | 39 |
| ◇久米川 | | | | | 49 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 49 |
| 奥甘味池 | | | | | | | | | | | 10 | | | | | | | | | 1 | 10 |
| ◇きょうこ池 | | | 7 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 9 |
| ◇小田池 | | | 15 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 17 |
| ◇百々池 | | | 5 | | 8 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 13 |
| 青運寺ダム | | | 18 | 37 | 3 | | | | | | | | | | | | | | | 3 | 58 |
| 原野前池 | | | | 3 | 40 | | | | | | | 9 | 2 | | | | | | | 4 | 54 |
| 西徳明池 | | | | | | 3 | | 3 | | | | | | | | | | | | 2 | 6 |
| 梅之木池 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| 松阪港 | | | 335 | | | | | | | 4 | | | | | | | | | | 2 | 339 |
| 宝光池 | | | 467 | 142 | 189 | | 8 | 14 | | 2 | | | 2 | | | | | | | 7 | 824 |
| 八重田池 | | | 12 | | 48 | | | | | 88 | | 33 | 16 | | | | | | | 5 | 197 |
| 山室の八条池 | | | 80 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 81 |
| 粟生頭首湖 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 2 |
| 中村池 | | | 11 | | 227 | 6 | | | | | 1 | 8 | | | | | | | | 5 | 253 |
| 伊勢路川河口 | | | 75 | | | | 25 | 414 | | 89 | | 95 | | | | | | | | 5 | 698 |
| 宮川河口左岸 | | | 17 | | | | 140 | 764 | | | | | | | | | | | | 3 | 921 |
| 宮川河口 | | | 121 | 22 | | | | 699 | 1 | 33 | 17 | | | | | | | | | 6 | 893 |
| やすらぎ公園調整池 | | | 5 | 61 | 28 | | | | | | | | | | | | | | | 3 | 94 |
| オシドリ池・湧池 | | | 43 | 3 | 14 | | | | | | | | | | | | | | | 3 | 60 |
| 神田堀 | | | | | 210 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 210 |
| 重ね池 | | | | | 103 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 103 |
| まが玉池 | | | 113 | 1 | 133 | | | | | | | | | | | | | | | 3 | 247 |
| 二つ池 | | | 20 | 54 | 163 | | 17 | 84 | | 4 | 5 | 43 | 15 | | | 1 | | | | 10 | 406 |
| 神路ダム | | 84 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 84 |
| 穴川養魚場 | 2 | | 8 | 9 | | 55 | 131 | 2312 | 1 | 357 | 8 | 202 | 233 | | 1 | | | | | 12 | 3319 |
| 片上池 | | | 22 | | | | | 57 | | | | | | | | | | | | 2 | 79 |
| 海野里 | | | | 2 | 11 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 13 |
| 古 | | | 21 | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 24 |
| 銚子川河口 | | | | 7 | | | | 62 | | | | | | | | | | | | 2 | 69 |
| 白石湖 | | | 5 | 6 | | | | 52 | | | | | | | | | | | | 3 | 63 |
| 産田川 | | | | 24 | 15 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 39 |
| 下市木海岸 | | | 88 | 55 | | | | 18 | | 6 | 2 | | | | | | | 1 | | 6 | 170 |
| 合計 | 2 | 126 | 3271 | 1358 | 3143 | 152 | 436 | 6010 | 2 | 1308 | 300 | 4749 | 1369 | 6018 | 144 | 1 | 84 | 1 | 3 | 18 | 28477 |
| 高山ダム | | 23 | 108 | | 3 | 5 | | 6 | | | | | | | | | | | | 5 | 145 |

◇ 異なる調査日の調査地：14日－みかずみ池、久米川、きょうこ池、小田池、百々池
16日－雲出川古川　　17日－雲出川新川河口

三重県支部員以外の調査協力者：榎本健二氏、東孝一氏、福田清人氏、福森守良氏

## 事務局だより

7月下旬から8月末まで、火曜日の事務所の作業は夏休みでした。夏休みといっても、理事会の準備はあるし、県や本部から文書は来るし、次号の支部報の発送準備もあるし、仕事はいろいろあるのです。9月6日（火）から作業を再開しますので、みなさん、ご協力をよろしく！！（木村京子）

**☆これから行われる探鳥会**　（詳細は送付済みの資料をご覧ください）

○　9月11日（日）櫛田川、愛宕川のシギ、チドリ
○　9月21日（水）秋の水辺の渡り鳥（田中川河口）
○　9月27日（火）カワセミを見よう！（天白川）
○　10月 2日（日）上野公園探鳥会
○　10月 6日（木）員弁川探鳥会
○　10月 9日（日）五十鈴川公園探鳥会
○　11月20日（日）県民の森探鳥会
○　11月27日（日）真泥池合同探鳥会
○　毎月第1金曜日 亀山第1金曜探鳥会
○　毎月第4日曜日 木曽岬・鍋田干拓地探鳥会

## 編集後記

三重県内はまだ給水制限の話は聞きませんが、全国あちこちで大変な事態になっているようです。これを機会に、森林行政のあり方を見直してほしいものです。

さて、今号も、伊勢ブロックのツバメのグループ調査や個人の観察記録などを始め、多彩な原稿をいただきました。ページの関係で、せっかくいただいたカットをカットせざるを得ず、相変らず紙面がのっぺりしているとのご批判をいただきそうです。乞御容赦！

次号は11月下旬の予定、ワシタカの南方への渡り、ガンカモの渡来など話題がもっとも沸騰する時期にかかります。たくさんの情報を期待しております。

表紙絵：平井正志（オオヨシキリ）
題　字：濱田　稔
カット：今村　禎、鹿島素子、
　　平井正志

「しろちどり」第６号

1994年8月発行

発行者：（財）日本野鳥の会三重県支部
〒516三重県伊勢市
杉浦　邦彦　方

【事務局】
木村　京子　方

編　集：中村　誠
印　刷：舘　印刷　〒510-13三重郡菰野町田口1903-3